

2004年2月16日

交通博物館の移転について

東京・神田にある交通博物館は、鉄道記念物12件(うち3件は重要文化財)を含む約25万点もの資料を収蔵する、国内有数の企業博物館です。これらの資産は、国鉄改革時に当社が承継し、社会貢献活動の一環として事業を継続しています。

数多くの貴重な鉄道の文化遺産を展示し、日本の近代化や戦後復興を支えた鉄道の歴史を広く伝えるとともに、鉄道関連の多様な技術を紹介することにより青少年に科学の心を育むなど、この事業活動を維持発展させていくことは、当社に与えられた重要な使命の一つであり、社会的にも大きな意義のあるものと考えています。

しかしながら、現在の交通博物館は築後約70年を経過し老朽化・陳腐化が著しく、さらに用地が狭隘なため、今後発展が望めないのみならず、早晚その事業の維持すら困難になることが予想されます。

一方、埼玉県さいたま市は、昨年4月に政令指定都市となり、今後も大いに発展が期待されるほか、市の社会・経済の中心である大宮駅に当社の全ての新幹線が集中するなど、交通の要衝となっています。加えて、さいたま市は、合併前の大宮市時代から交通博物館の誘致に熱心であり、現在でも「さいたま市鉄道博物館整備基金」を設置して、交通博物館の誘致活動を積極的に行っています。

そこで、この度、当社創立20周年記念にあわせて、さいたま市のご協力をいただきながら、同市大成地区の当社用地に交通博物館を移転することとしました。また、関係各層のご協力とご支援をいただきながら、当社だけでなく、JR他社や私鉄等を含めた、日本の鉄道界全般を代表する博物館として育てることも視野に入れ、ハード・ソフト両面において、従来のイメージを一新するような事業展開を目指したいと考えています。

計画概要

(1) 名称

鉄道博物館

(2) コンセプト

日本及び世界の鉄道に関わる遺産・資料に加え、国鉄改革やJR東日本に関する資料を体系的に保存し、調査研究を行う「鉄道博物館」とします。

鉄道システムの変遷を、車両等の実物展示を柱に、それぞれの時代背景等を交えながら、産業史として物語る「歴史博物館」として位置づけます。

鉄道の原理・仕組みと最新(将来構想を含む)の鉄道技術について、子どもたちが、模型やシミュレーション、遊戯器具等を活用しながら、体験的に学習する「教育博物館」としての性格も持ち合わせます。

(3) 施設計画

住所	埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目、同北区大成町4丁目 (JR大宮駅より埼玉新都市交通「大成」駅下車徒歩1分)
敷地	約42,500m ²
建物	延床面積 約19,800m ²
展示スペース	約9,500m ²
展示車両	約30両
その他の施設	運転シミュレータ、模型鉄道ジオラマ、ミニ運転列車(屋外)、資料収蔵庫(一部見学可能)、図書収蔵庫、映像コーナー、多目的ホール、ギャラリーバルコニー、軽食・喫茶、ミュージアムショップ、研究室、事務室
開業時期	2007年度中(予定)

(4) 事業方式

財団法人東日本鉄道文化財団が、新博物館施設の建設及び運営を行います。

(5) 工事費

約123億円

(6) その他

ホームページアドレス名:<http://www.railway-museum.jp>

(参考) 交通博物館の概要

交通博物館は、1921年(大正10年)に鉄道省が鉄道開業50年記念事業の一つとして東京駅北側の高架下に開設した鉄道博物館を前身とし、1936年(昭和11年)に設備拡充のため現在の場所に移転、1948年(昭和23年)に交通博物館と改名、1987年(昭和62年)4月1日以降は当社に帰属し、現在に至っています。施設の概要は以下のとおりです。

住所	東京都千代田区神田須田町1丁目25番地
敷地	5,023m ²
建物	延床面積 7,554m ²
展示スペース	4,624m ²
実物展示車両	8両(うち、御料車2両)
その他の施設	運転シミュレータ、模型鉄道ジオラマ、資料室、図書室、映画ホール、休憩所、軽食堂、記念品コーナー、会議室、事務室